

特別シンポジウム 戦後70年

第二次世界大戦の終結と脱植民地化——イタリア植民地を事例に

いま、

日時：2015年5月12日(火) 18:30-20:00
場所：人文研本館・セミナー室1
無料・申込み不要 来聴歓迎

講演者：テケステ・ネガシユ

(ウプサラ大学名誉教授)

演題：The Impact of Colonialism on Eritrean Identity

(エリトリア・アイデンティティに対する植民地主義のインパクト)

使用言語：日本語(講演は英語ですが日本語訳のペーパーを配布します)

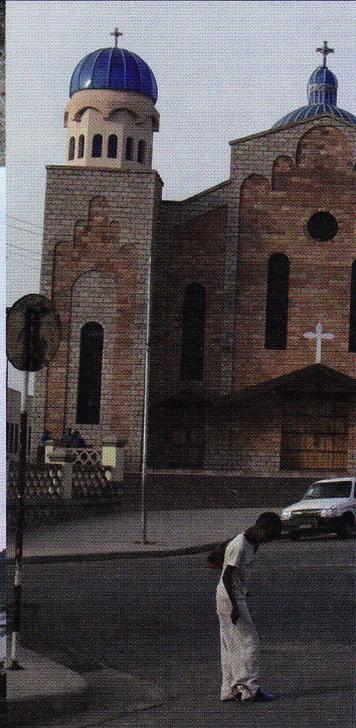
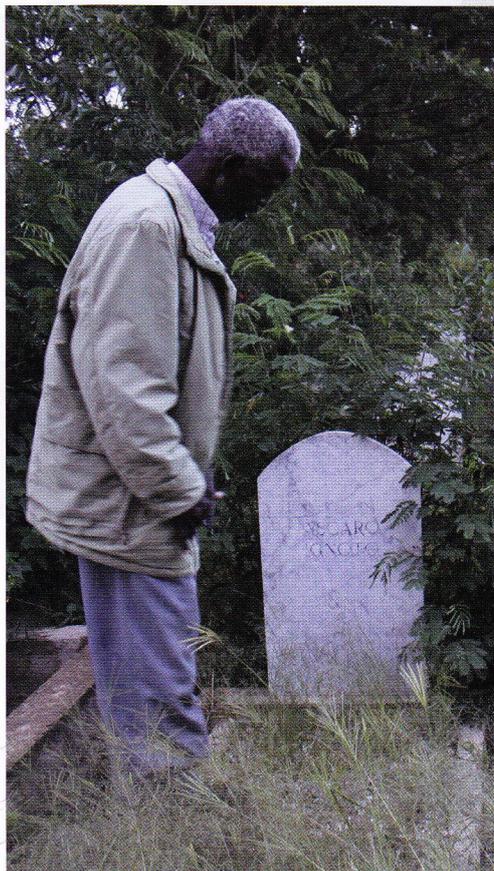
司会：藤原辰史(京都大学人文科学研究所)

コメント：水野直樹(京都大学人文科学研究所)

植民地主義を

イタリアの

考える



主催 | 京都大学人文科学研究所
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

お問合せ | 京都大学人文科学研究所 総務掛
TEL: 075-753-6902

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

メールアドレス: z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

共催 | 科学研究費基盤A「兵士・労働者・女性の植民地間移動にかんする研究」(代表者:永原陽子)、
上智大学イスラーム研究センター、早稲田大学イスラーム地域研究機構

戦後70年

第二次世界大戦の終結と脱植民地化 — イタリア植民地を事例に

第二次世界大戦が終ってから70年の間、帝国日本の植民地にかんする研究はたしかに目を見張るほど前進した。しかし、同盟国ファシスト・イタリアの植民地主義との比較は、いくつかの先駆的な研究をのぞいてまだ十分に進んでいるとはいえない。今回の企画では、イタリアの植民地研究の最前線で活躍するテケステ・ネガシュ氏を招き、エリトリアにおけるイタリア植民地主義について語っていただく。近代朝鮮史研究者の水野直樹氏のコメントも一つの手がかりとしながら、比較植民地研究のあらたな進路を模索したい。



Tekeste Negash, Ph. D

(テケステ・ネガシュ)
1947年、エリトリア、アスマラ生まれ。

Emeritus Professor of Dalarna University, Sweden
Emeritus professor of Uppsala University, Sweden
An associate member of the Ethiopian Academy of Sciences and an Adjunct Professor at Bologna University.

〈主要業績〉

Tekeste Negash, *Italian Colonialism in Eritrea, 1882-1941: Practice, Praxis and Impact*, Almquist & Wiksell International, 1987
Tekeste Negash, *Eritrea and Ethiopia: the Federal Experience*, Transaction Publishers, 1997
Tekeste Negash & Kjetil Tronvoll, *Brothers at war: making sense of the Eritrean-Ethiopian war*, J. Currey, 2000



司会

藤原辰史 (ふじはら・たつし)

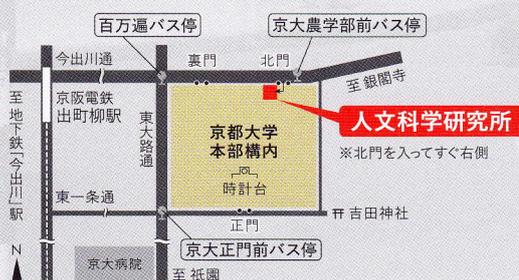
京都大学人文科学研究所准教授
食の思想史、農業史。主な著作として『ナチスのキッチン』(水声社、2012年)など。



コメント

水野直樹 (みずの・なおき)

京都大学人文科学研究所教授
朝鮮近代史・東アジア関係史。主な著作として『創氏改名』(岩波新書、2008年)など。



●市バス 17, 203系統「京大農学部前」下車徒歩1分 / 31, 201, 204系統「百万遍」下車東へ徒歩5分
●京阪電車「出町柳」下車東へ徒歩15分 京都大学 北門入ってすぐ右
* 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

●ジャズ・コンサート

わけ
すごいジャズには理由がある

講師 | フィリップ・ストレンジ(ピアノ) お話 | 岡田暁生
日時 | 2015年5月16日(土) 15時開演
場所 | 京都府民ホール アルティ
共催 | 京都府民ホール アルティ
入場料 | 一般 3,000円(前売 2,500円) 学生 2,000円(前売 1,500円)
予約 | 京都府民ホール アルティ 075-441-1414

次回予告